



## 立志記念講演会 令和8年 1月26日

松本 巧也 まつもとたくや



自分のお仕事だけじゃなくて、  
自分じぶんにできるできることをする。  
助けたす合あって、**団結**だんけつして、  
乗り越かえていいくっていくことが、**大事**だいじ

※「南極クラス」は、国立極地研究所とミサワホームの産学共同プロジェクトです。

2年生は「立志式」を迎えます。これに先立ち、全校生徒対象に講演会「南極クラス」を開催しました。講師は、**松本巧也**先生。第65次南極地域観測隊の越冬隊として、2023年11月～2025年3月まで南極の昭和基地で活動され、帰国してからは全国の学校や企業で自身の経験やメッセージを届けています。

会場のスクリーンには、壮大な南極大陸の自然や過酷な環境が映し出されました。知っているようで知らないことばかり。生徒の感想に今回の講演で「**南極について知ったこと**」を書いてもらうと・・・

日本の国土の37倍の広さをもつ南極大陸ですが、昭和基地のある場所は「東オングル島」と言って、大陸とは地続きではない。日本と季節が逆。オーロラの色。氷山で海面上に見えているのは1割。越冬隊と夏隊がある。一日中太陽が沈まない「白夜」や太陽が昇らない「極夜」。ペンギンは泳ぐのが速い（自転車並）。ペンギンが100km歩いて移動する場合も。ペンギンがアミ（エビの仲間）を食べてた。シロクマは南極にいない。最低気温が「-45℃」の世界。日本人で最初に南極に渡った白瀬さんは毛皮の服だったが、現在は羽毛服。基地内で野菜を育てている。ごみは分別して日本に持ち帰る。ブリザードになったら風速60m/秒の風（これは新幹線200km/時と同じ）。最深の氷の厚さは4,000m。もし南極の氷が全部解けたら、海水面は60m上昇。まばたきの瞬間（0.2秒）で25mプール2杯分の氷が解けている現状。等々。

そんな環境の中で、南極地域の観測を行ったり、新しい建物を建設したり、27名の越冬隊員が一年ちょっとの期間をチームで助け合って生活している様子などを伝えていただきました。

生徒の感想から紹介します。

- ・停電の時の話が心に残っています。電気のことを何も知らないような人でも、できることを見つけようと集まって行動し、**チーム**の方々と修理したこと。
- ・南極は楽しみがないんじゃないじゃなくて「**楽しみは自分たちで見つける**」という言葉が印象に残った。



- ・他の人が困っていたら、助け**協力**することが大事。
- ・最後の27名の隊員からの**メッセージ**は、**とっても心にしみました**。
- ・大工の専門は1人だが、みんなで協力して建物を建てていた。少ない人数だが、**他の部署の人と助け合って成り立っていた**。
- ・普段何気なく生活してますが、**様々な人に支えられていることが分かった**。
- ・何も無い南極で**楽しみを作り出すことができるのだから、私たちの普段の生活では**



**もっと簡単に楽しみを作り出せる**と思った。

生徒会長の **〇〇〇** さんからの「お礼」のあいさつは、落ち着いた語りで感心しました。

松本先生の今後の活躍を祈念します。ありがとうございました。